

タブララサ

Tabula rasa



BAIKO GAKUIN UNIVERSITY
LIBRARY SUPPORTER
梅光学院大学図書館サポーター

広報誌 第29号

目次

- ◇はじめに 3
- ◇Tabula rasaとは 3
- ◇図書館サポーターとは 3
- ◇2024年、2025年活動紹介
- ＊部活動紹介 4
- ＊Instagram連動企画 5
- ＊本の福袋 6
- ＊LUCIS祭の出店～表紙の見えない古本市～ . . . 7
- ◇4年生より 8
- ◇編集後記 9



◇はじめに

この度は本誌を手にとっていただき誠にありがとうございます。

第29号では、2024年度、2025年度の活動の一部を掲載しています。

2025年には新しいメンバーも加わり、新たな活動にもチャレンジすることができました。この冊子が、私たちの活動に興味を持っていただけるきっかけの一つになれば幸いです。

◇Tabula rasaとは

“Tabula rasa (タブララサ)”とは、社会契約説を唱えたジョン・ロックの言葉で、ラテン語で「白紙」を意味します。

「生まれたときは皆白紙である。

そこに、経験によって様々な観念が書き込まれる。」

私たち図書館サポーターも「白紙」に書き込んでいくように活動の幅を広げていき、多くの経験をしていきたいという思いを込め、2005年の「図書館新聞」を起点として広報誌の名前としています。

◇図書館サポーターとは

梅光学院大学の学生目線で図書館をよりよくしていこうと活動しているボランティア団体です。図書館を盛り上げるために、様々な活動に取り組んでいます。活動内容はみんなで考えながら行っているため、毎年変化しています。

もともと本が好きな人、本はあまり読まないという人、様々な人に図書館に興味を持ってもらい、心地よいと感じてもらえるように活動しています！



2024年・2025年 活動紹介

*部活動紹介

4月7日(月)の学友会オリエンテーションで新入生に向けて部活動等のアピールをすることが決定！図書館サポーターから2名の部員が活動紹介をすることになりました。

3月26日(水)のリハーサルでは、段取りの確認や説明場所の確認があり、当日を想定した打ち合わせが入念に行われました。

学友会オリエンテーション当日には、3分毎に順番にやってくる1年生を目の前に、図書館サポーターの魅力を動画や話を通して伝えていきました。卓上にはライブラリアン13世の栞やマイ栞が作れる材料を置いておき、興味を持ってもらえるような工夫をしました。

最初はどのようにアピールすればよいか戸惑う場面も多かったですが、終わりに近づくにつれて説明中の声掛けが板についてきました。説明で紹介していたInstagramにも興味を持ってくれた新入生がいてとても嬉しかったです！

無事、全ての行程が終わり、入部希望の新入生が数名活動を見学しに来てくれました！

*Instagram連動企画

昨年引き続き、Instagramで紹介している中から大学で貸し出しをしている本を集めて紹介しました!投稿画面と並べて、まるでInstagramから飛び出したかのような展示を行いました。

Instagramを入り口に、読書を楽しまれてはいかがでしょうか?👀



*本の福袋

本の福袋とは…

テーマに沿って選んだ3冊の本が入った紙袋を紙袋ごと貸し出します。紙袋に入った状態で貸し出すため利用者はどんな本が入っているのかわかりません。図書館サポーター、恒例の企画です!!!

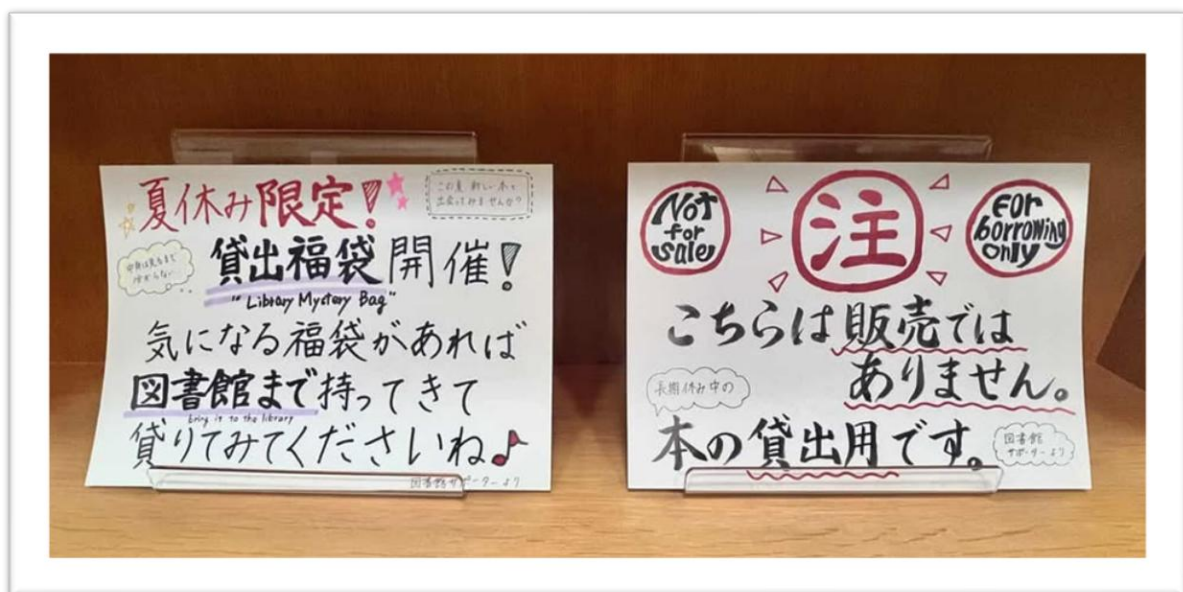


選んでいる本の中身はそれぞれちがいます!
絵本もあれば、長編小説もあります!

図書館サポーターがPOPを作成しています!

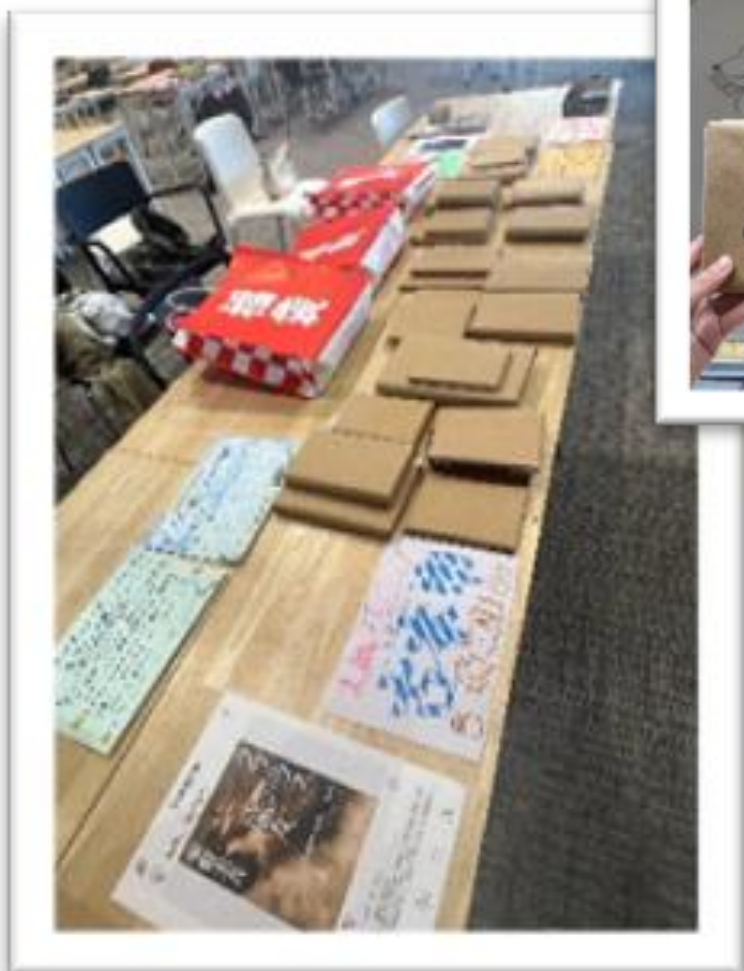


「買う」のではなく「借りる」からこそ簡単に新しい本との出会いができる!



*LUCIS祭の出店 ～表紙の見えない古本～

ご好評につき、今年もLUCIS祭にて古本市を開催しました。今回は昨年度からさらにパワーアップし、「**表紙の見えない古本市**」として出店しました。出品する本はすべてラッピングし、内容が分からない状態で並べることで、来場者の皆さんには直感で本を選んでいただく形式を採用。また、事前準備ではラッピングに加え、プレゼント用で手作りの飾りも用意しました。



当日は「**普段手に取らない本と出会えた**」「**新しい発見があった**」といった声が寄せられ、多くの方に楽しんでいただくことができました。さらに、希望者にはラッピングにイラストを描いて提供するなど、**従来の古本市の枠を超えた取り組み**も実施しました。本との偶然の出会いを大切にしたい今回の企画は、多くの来場者に新しい読書体験を届ける場となりました。

部長・副部長より

図書館サポーター副部長 山角智紘

ひよんなことから入部した部活でいきなり副部長という、嘘のES顔負けの経験をしました。本当に右も左も分からず、部長に頼ることのほうが多くて「部長は頼りになるなあ〜!」と感じております。この新聞もその部長が主導です。ありがとう、本当に。

少しでも本に興味を持ってもらえるよう図書館サポーター一同工夫を凝らしていました。貸し出し用福袋の準備、POP作成、大学祭での出店…案外いろいろなことを図書館サポーターはやっていたのだとこの文章を書きながら感じています。さまざまな経験ができたのも、先生方や職員の方の支えがあったからです。この場を借りてお礼申し上げます。

残り1年、よりよい読書生活を梅光学院大学図書館で送れたらいいなと思っています。

ありがとうございました!

図書館サポーター部長 梅本萌

大学2年生から入部し、3年生の1年間は部長を務めさせていただきました。始めは先輩と2人きりというところから私の活動の物語は始まり、慣れないながらも、本への熱すぎる想いを胸に、より多くの人に本を届けようとさまざまな活動を行いました。そして半ば強引な部分ではありますが、副部長という登場人物を引き摺り込み、なんとか部員を増やして上記のように活動の幅を広げることができました。見捨てないで支えてくれた副部長には感謝しかありません…。

また、これまで図書館サポーターの活動を寛大な心で支えてくださった先生方、職員の方々にも厚く御礼申し上げます。私はこの春、図書館サポーターという役割を卒業します。しかし「本を読むこと」だけは、きっと一生、卒業することはないでしょう。ページをめくるたびに新しい世界と出会える、その喜びを噛みしめながら歩いていきます。

これからも本好きな皆様に、思いがけない一冊との出会いがありますようお祈りいたします。本当にありがとうございました!

編集後記

新聞の「タブララサ」の説明にも書いておりますが、この広報誌は2005年に創刊され、今年度で20周年を迎えます。創刊した当時のような活動をできているかと聞かれれば、かなり活動内容も縮小しているかもしれません。ですが、今年度も図書館の良さや本の良さを広げるための活動ができたのだと、この新聞を書きながら感じております。

今後とも図書館サポーターの活動を見守っていただけると幸いです。本のことや図書館について気になることがあれば気軽に声をかけてください。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

梅光学院大学図書館サポーター広報誌「Tabula rasa」第29号

発行日：2026年3月31日

発行：梅光学院大学図書館サポーター

編集：梅光学院大学図書館サポーター